

が84・17%に改善しており、全般的に年鑑・経営指標と比較すると良好な状態といえます。

2 山入水源及び鳥平水源について

ア 山入水源の使用に関しては、地元の関係者との協議も整っており、円滑な活用が図られています。今後とも、地元関係者との意志の疎通に留意し、引き続き円滑かつ継続的に活用が図られるよう努力してください。

イ 鳥平水源においては、今後の活用について、より具体的な方向性を示せるよう創意工夫を図ってください。

3 固定資産台帳の整備について

決算書固定資産明細書に示されている数値と現実に管理されている固定資産台帳の帳簿価額が符合していません。決算上は、前年度の決算数値から現年度分を増減する形で調整が行われています。このことについては、数年前から指摘がなされているところですが、今後は、適正な管理が出来るよう、計画的、具体的な調整を図ってください。

4 水道管破損事故について

工事中の水道管破損事故が当年度1件起きています。昨年に比べると件数は減っています。今後とも、不注意による事故をなくすよう、業者との意思疎通を密にし、注意喚起に努めてください。

5 有収率について

今年度も有収率は91・65%で、昨年に続いて90%を超えました。今後も漏水調査に積極的に取り組むなど、給水効率の改善に努めてください。

6 職員による横領事件について

今回の職員不祥事は大変残念なことですが、組織内の様々な問題を多角的に再点検し、業務推進体制や日常業務のあり方等も含めて改善を図ることが求められます。これを機に、これまでの常識に捉われないこと、初心に戻り、職員の意識改革を進めていくことは、今後の桂川町の進展の大きな礎になるものと確信する次第です。果敢に改革に着手していただくよう希求します。

7 危険管理意識について

水は命の源であるということに改めて留意され、非常時に対する危機管理意識を怠ることなく、今後とも、「安全かつおいしい水」を提供し続けていただくよう要望します。

健全化判断比率等

健全化判断比率（実質赤字比率、連結実質赤字比率、実質公債費及び将来負担比率の4指標）及び資金不足比率は、適正に算定されていると認めました。

各指標の値は、早期健全化基準を下回っており、財政に関する問題はありません。

～健全化判断比率等の推移～

健全化判断比率及び資金不足比率は、早期健全化基準を下回っています。

	健全化判断比率				資金不足比率
	実質赤字比率	連結実質赤字比率	実質公債費比率	将来負担比率	
平成 22 年度決算	- (なし)	- (なし)	7.0%	22.2%	- (なし)
平成 23 年度決算	- (なし)	- (なし)	5.9%	11.7%	- (なし)
平成 24 年度決算	- (なし)	- (なし)	5.1%	5.3%	- (なし)
早期健全化基準 (経営健全化基準)	15.00%	20.00%	25.0%	350.0%	20.00%
財政再生基準	20.00%	30.00%	35.0%		

○早期健全化基準（経営健全化基準）

健全化判断比率のうちいずれかが早期健全化基準（経営健全化基準）以上の場合には、議会の議決を経て財政健全化計画を定め、自主的な改善努力による財政健全化が求められます。

○財政再生基準

健全化判断比率のうちいずれかが財政再生基準以上の場合には、いわゆる赤字再建団体となり、議会の議決を経て財政再生計画を定め、国等の関与による確実な再生が求められます。